

卓越したグローバル ゲートウェイ

DHL Global Forwarding
Managing Director for Hong Kong and Macao
マーク・スレイド (Mark Slade)



220 を超える国・地域で 38 万人の従業員が働く DHL は、広範なネットワークの運営に精通している。だからこそ、同社の香港・マカオ地区担当のマネージング・ディレクターである マーク・スレイド氏が、香港の重要な位置づけを認め、「アジアの航空グローバルゲートウェイ」と呼ぶことには重みがある。

スムーズな積み替え輸送を必要とする企業にとって、香港は比類なき価値をもたらすと同氏は語る。近隣諸国の数十にもおよぶ主要都市から数時間でアクセス可能な地理的ロケーションに加え、自由港の香港では関税がほとんどかからない。

香港政府は関税を課さず、輸出入される物品の報告のみを義務付ける。その報告は歳入ではなく統計を目的としている。つまり、企業は煩雑な書類作成に追われることなく、アジア内で速やかに物品を輸送することができるのだ。

香港国際空港が接続性に優れていることも、物品、特に高額品の輸送を取り扱う DHL などの企業にとっては特にメリットとなっている。いまや海上輸送の大半は中国本土の多くの主要港から直接海外に向けられているが、航空貨物に関しては、香港はいまなお世界へ通じる地域の主要なゲートウェイであり続けている。

「当社の香港からの輸出ビジネスは、アジア、ヨーロッパ、米国向けがそれぞれ約 3 分の 1 ずつとバランスがとれています。扱う貨物の種類についても従来から得意とする分野を中心に良好なバランスを保っています。ハイテク、エンジニアリング、製造業、衣料品、高級

消費財といった分野で、部品と完成品の両方を取り扱っています」と同氏は話す。

これには極めて効率的な在庫管理が求められ困難を伴うが、香港は法務および金融面で優れており、同社にとって契約や支払を取扱う上で理想的な中心地となっている。香港には、会計士事務所や弁護士事務所を含む多くのビジネス専門サービスと B2B のネットワークがあり、世界有数のビジネス基盤を形成していると同氏は語る。そしてさらに「香港のエコシステムは何十年にもわたって構築されてきたものです」と指摘する。

混乱期を耐え抜く力

スレイド氏は、中国南部から香港を経由し世界へと向かうサプライチェーンのネットワークについて、絶対的に必要かつ安定しており、他に取って代わられることはないとの見方を示している。

しかし、より広範囲な環境変化のもとで企業が事業運営の効率化に向けた新たな方法を模索するなか、こうしたエコシステムは発展し続けており、複雑化している。

今日、サプライチェーンのマネージャーは、地政学的緊張および新型コロナウイルスが生産と需要に与える影響を考慮し、舵取りをしていかなければならない。上昇する人件費やその他の経費支出といった従来から続く課題にもいっそうの取り組みが必要であり、さらには ESG(環境・社会・ガバナンス)に関する透明性もますます求められている。各企業は複雑化する状況や課題

への対応を進めている。

「いまや、こうしたさまざまな事項すべてを統合することこそがバリュー・プロポジション(価値提案)になってきています。そのためにはノウハウや知識を 1 か所に集めて保持できることが必要となります」とスレイド氏は語る。DHL にとっては、香港がその場所だ。同氏は、アジアの主要な国際金融センターであることは香港の重要な資産だとして、次のように話す。

「統合型サプライチェーンの中核には金融があります。香港は、トレードファイナンスを提供するだけでなく、オフショア人民元センターとしても機能し、国際金融センターとしての地位を確固たるものとしています。企業がサプライチェーンとソーシングニーズに対処するにあたって必要となるすべてがそろっている場所です。」

香港には知識という強みがあるほか、現地スタッフの倫理観も素晴らしいと同氏は称賛する。「香港には、とても強いコンプライアンス文化が存在します。会計監査や品質監査から、昨今必要とされている、透明性が高く信頼できる環境品質保証体制監査に至るまで、広い範囲にいきわたっています。」

香港の今後について、スレイド氏は次のように語る。「企業は今後も従来どおり香港を通じて物品の調達や輸送を行うであろうと確信しています。香港は、これから先も航空グローバルゲートウェイとしてリーダーであり続けるでしょう。」